

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

マイクロンメモリジャパン株式会社 Fab15

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市吉川工業団地7番10号

(3) 業種

集積回路製造業(2814)

2 計画の期間

本計画の期間は、平成15（2003）年度を基準年度とし、令和1（2019）年度～令和5（2023）年度の5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂) , 削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d), 下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()	令和 年度 ()
エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： ウエハ投入枚数(200mmウエハ換算)

温室効果ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d), 下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成15年度 (2003)	令和5(2023)年度	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	令和4(2022) 年度	2023年度
エネルギー 起源CO ₂	0.276	0.170 -38.4	0.180 34.8	0.173 37.3	0.176 36.3	0.216 21.7	100.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス	0.273	0.150 -45.1	0.096 64.8	0.130 52.4	0.129 52.8	0.129 52.8	100.0
温室効果ガス 排出量総計	0.549	0.320 -41.7	0.276 49.7	0.304 44.6	0.305 44.4	0.344 37.3	100.0
エネルギー消費原 単位(原油換算 kl)	0.121	0.097 -19.8	0.081 33.1	0.082 32.2	0.086 28.9	0.105 13.2	100.0
実績に対する 自己評価	2022年度は生産にインパクトを与えるイベントが7月に発生し、イレギュラーな製品ロスがあり生産数が伸びず、それが原単位を増加させる原因となった。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	その他温室効果ガスの削減	温室効果ガス排出量総計の原単位換算で3.6%削減(2022年度)	PFC除去可能な除害装置導入(2021年より継続中)
2	その他温室効果ガスの削減	温室効果ガス排出量総計の原単位換算で0.6%削減(2022年度)	High GWP HTFからLow GWP HTFへの移行(2021年より継続中) □
3			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組 (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	廃棄物量の削減	アンモニア廃液量、IPA廃液量の削減	・低濃度廃液の蒸留による産業廃棄物量の削減および高濃度化による有価物化
2	ごみ分別による3R推進	—	資源回収箱設置によるごみ分別の徹底
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。